

# 英語構文および文法指導における例文について

—シャーロック・ホームズ作品からの活用—

犬飼 建治

## 1 はじめに

英語読解の基礎は、英文法と構文理解にあることは言うまでもない。英語教師として、これまでに文法・構文の理解のために、さまざまな文法・構文の問題集や参考書を利用してきたが、例文の工夫によっては生徒の文法力と構文の理解力を高めるとともにさらに英語に対する興味もより深めることができると思われる。

筆者は英語教師のかたわらで、世界中の人々が愛する名探偵シャーロック・ホームズ(Sherlock Holmes)ファン、つまりシャーロキアン(Sherlockian)でもある。ホームズ作品を原文で読むことが1つの楽しみになっている。そこで、ホームズ作品を引用して、高校生が履修する文法事項や重要構文を含む英語原文に触れさせることで英語学習に対して刺激を与えたいと考えている。

ここでは、南出康世 監修『新訂版 コンパクト英語構文90』(2004年 数研出版)の「目次」ならびに「必修構文」「基本構文」「重要例文」「暗唱例文集」で採り上げられた文法事項・英語構文を参照しながら、ホームズ作品のなかでも有名な『シャーロック・ホームズの冒険』(*The adventure of Sherlock Holmes* 1891)に収められている『ボヘミアの醜聞』(*A Scandal in Bohemia* 1891)を選び、生き生きとした英語原文の実例を紹介することにしたい。なお、原文の和訳は、筆者および数研出版編集部にて作成した。

## 2 実例集

①必修構文12 [see + O + 原形不定詞] (30頁)

**I saw him kick** the ball into the goal.

(彼がボールをゴールにけり込むのを見た.)

#1

To Sherlock Holmes she is always *the woman*. I have seldom heard him mention her under any other name. In his eyes she eclipses and predominates the whole of her sex. (p.9)

シャーロック・ホームズにとって、彼女はいつも「あの女」だ。他の別の呼び名で口にするのはめったになかった。彼の女性全体像が彼女のせいでもらされ、操られているのだ。

②必修構文26-3 [with + O + 過去分詞] (58頁)

He was reading a newspaper **with his legs crossed.**

(彼は足を組んで、新聞を読んでいた.)

#2

As I passed the well-remembered door, which must always be associated in my mind with my wooing, and with the dark incidents of the Study in Scarlet, I was seized with a keen desire to see Holmes again, and to know how he was employing his extraordinary powers. His rooms were brilliantly lit, and, even as I looked up, I saw his tall spare figure pass twice in a dark silhouette against the blind. He was pacing the room swiftly, eagerly, with his head sunk upon his chest, and his hands clasped behind him. To me, who knew his every mood and habit, his attitude and manner told their own story. (p.10)

見る度に、私の求婚時代と共に『緋色の研究』の陰うつな事件をきっと思い出すであろう、あの記憶

に刻まれたドアの前を通りがかったとき、急に私は、ホームズにもう一度会って、彼がああの外れた能力をどのように用いているのかを知りたいという強い欲望に駆られた。彼の部屋は電灯に照らされて明るく、見上げている間にも、背の高いやせた人影が、ブラインドに2回、濃いシルエットとなって浮かぶのが見えた。頭を深く垂れ、両手を後ろで組み合わせて、しきりに部屋を行ったり来たりしていた。あらゆる彼の機嫌や癖を熟知しているので、私には彼の態度やしぐさが読みとれるのだ。

③必修構文 59 [so ~ that ...] (124 頁)

I was **so** surprised **that** I couldn't speak.  
(私はとても驚いたので口をきくことができなかった。)

# 3

'When I hear you give your reason,' I remarked, 'the thing always appears to me to be so ridiculously simple that I could easily do it myself, though at each successive instance of your reasoning I am baffled, until you explain your process. And yet I believe that my eyes are as good as yours.' (p.12)

「君の推理を聞くと、いつもばかばかしいほど単純なので、自分にも苦もなくやれそうに思えるよ」とぼくは言った。「とは言っても、順を追って君が推理を展開するたびにめんくらって、後で解説してくれるまで、ちんぷんかんぷんなのだがね。それでも、ぼくの眼識は、君と同じくらいよいと思っているんだ」

④必修構文 58 [命令文 + and ~] (122 頁)

Come here, **and** you can see the fireworks.  
(こっちへおいでよ、そうすれば花火が見えるよ。)

# 4

I left the house a little after eight o'clock this morning, in the character of a groom out of work. There is wonderful sympathy and freemasonry among horsey men. Be one of them, and you will know all that there is to know. (p.20)

ぼくは今朝8時ちょっと過ぎに、失業中の馬丁といういでたちで外出した。彼らはお互いに驚くべき同情と友愛感情を共有しているからね。そこに入り込めば、そこにある知るべきことは全て知ることになるだろうね。

⑤必修構文 20 [S+V+O+C(現在分詞)]

(46 頁)

We **saw the first star shining** in the sky.  
(私たちは一番星が空に輝いているのを見た。)

# 5

I was half dragged up to the altar, and before I knew where I was, I found myself mumbling responses which were whispered in my ear, and vouching for things of which I knew nothing, and generally assisting in the secure tying up of Irene Adler, spinster, to Godfrey Norton, bachelor. ... (p.22)

ぼくは祭壇へ半ば引きずられるように上げられ、どこにいるのかもわからないうちに、気がつくと、耳打ちされる返答をぶつぶつとつぶやいたり、まるっきり知らない事柄の証人になったり、晩婚のアイリーン・アドラと独身男のゴッドフリー・ノートンの結婚成立に立ち合っていたのだ。

⑥必修構文 21-④ [S+V+O+C(過去分詞)]

(48 頁)

I **heard my name called** in the crowd.  
(私は)私の名前が人ごみの中で呼ばれるのを耳にした。)

# 6

For many years he had adopted a system of docketing all paragraphs concerning men and things, so that it was difficult to name a subject or a person on which he could not at once furnish information. In this case I found her biography sandwiched in between that of a Hebrew Rabbi and that of a staff-commander who had written a monograph upon the deep-sea fishes. (p.16)

彼は長年にわたって、人物などに関するあらゆる

記事に内容摘要を付けて分類する方法を取っていたので、どんなテーマや人物の情報でもすぐさま供給できた。この事件でも、彼女の記録が、ユダヤ教のラビと深海魚に関する研究論文を書いた、海軍参謀中佐のものの中に挟まっているのを見つけた。

⑦必修構文 53 [as if ~ were ...] (112頁)

She treats the dog **as if it were** her friend.  
(彼女はその犬をまるで友だちのように扱う。)

⑧必修構文 68 [as ~ as ...] (142頁)

He is **as tall as** his father.  
(彼は父親と同じくらいの背の高さだ。)

# 7, # 8

'On the contrary, my dear sir,' cried the King. 'Nothing could be more successful. I know that her word is inviolate. The photograph is now as safe as if it were in the fire.'

'I am glad to hear Your Majesty say so.'

'I am immensely indebted to you. Pray tell me in what way I can reward you. This ring—' (p.32)

「それどころか、これ以上うまくは運ばないであろう」と王は叫んだ。「彼女の言葉に疑いは無用である。写真はもう火の中に入れたのと同然に安全だ」

「陛下のお言葉、ありがたく存じます」

「余は非常に感謝している。どんなほうびを与えればよいか、どうか言ってくれたまえ。この指輪は—」

⑨必修構文 1 [It is ~ to....] (8頁)

**It is nice to have** a lot of friends.  
(たくさん友だちがいることはよいことだ。)

# 9

'I have no data yet. It is a capital mistake to theorize before one has data. Insensibly one begins to twist facts to suit theories, instead of theories to suit facts. But the note itself. What do you deduce from it?' (p.12)

「まだデータがない。データもないうちに推論するのは重大なまちがいだよ。人は気づかないうちに、理屈に合うように事実をねじ曲げだすんだ、事実

合う理屈を導き出そうとしないでね。ところで、この手紙なんだが、君はこれから何を推理するかね？」

### 3 おわりに代えて

この短編『ボヘミアの醜聞』は、ペーパーバック版でわずか32頁のたいへん短いものであるが、ここで示した9の実例以外にも、高校生が履修する文法事項、英語構文、重要熟語を含んだ英語原文を多く含んでいる。これは他の作品も同様である。引用した例文に前後の英文を入れた関係で長くなったものもあるが、ある程度の分量の英文は読解力をつける意味がある。また、名文の香りを少しで味わってもらいたい意図もある。

シャーロック・ホームズを教材として扱っている教科書はごくわずかで、その上rewritingされている。これでは、格調高い文体の価値は半減する。筆者は今後もホームズ研究を進化させるとともに、英語教師として文法事項の説明や英語読解のなかにホームズやワトソンが語る生の英語を引用・活用していきたいと考えている。

#### 引用文献

南出康世 監修『新訂版 コンパクト英語構文90』数研出版 2004

Doyle, Sir Arthur Conan *The adventure of Sherlock Holmes* Penguin Books 1981

#### 参考文献

延原謙 訳『シャーロック・ホームズの冒険』新潮文庫 1991

(兵庫県立芦屋高等学校教諭)